

葉山町は「ごみゼロ」を目指します

これまで葉山町は、国の示す広域化の基本方針を受け、県のごみ処理広域化計画に基づく形で、より効率的なごみ処理を目指し、約 10 年間にわたり近隣市との協議を進めてきました。しかし、広域化による大規模な施設建設に対する不安の声や、環境保全に対する住民の要望の高まりを受け、私は「分別による資源化減量化を軸として、脱焼却・脱埋立を目指す」という公約の実現に向け、5 月末日をもって、横須賀市・三浦市との「2 市 1 町ごみ処理広域化協議会」を解散いたしました。平成 19 年 3 月 29 日付で締結いたしました覚書は、協議会の解散をもちまして無効となりました。

葉山町として、今後、単独でごみ処理を進めていく上では、徹底的な資源化減量化を進めていく必要があります。どの程度、いかにして減量化を進めていくのか、という点について、熟慮検討した結果、「ゼロ・ウェイスト*」という抜本的な方針を取る決意を固めました。真に持続可能な社会を構築するためには、ごみの資源化減量化による「脱焼却・脱埋立」を、単なる理想論ではなく、現実の目標として達成することが必要です。世界各地で、ゼロ・ウェイストを宣言する都市が相次ぎ、すばらしい成果が報告されています。葉山町も、ぜひゼロ・ウェイスト宣言を行い、環境に負荷を与えない、町民の方々が安心して暮らすことのできる町を目指していきたいと思います。

*「ゼロ・ウェイスト」…英語で「ごみゼロ」を意味し、オーストラリアから全世界に広まったごみの徹底的資源化減量化の政策

ゼロ・ウェイストは、文字通り、焼却・埋立に回すごみを「ゼロ」にしようという政策です。日本では既に、徳島県上勝町、福岡県大木町がゼロ・ウェイスト宣言をしており、葉山町は、今年度中に、3 番目のゼロ・ウェイスト宣言都市となるべく、準備を進めていきたいと考えています。

ゼロ・ウェイストなどと申しますと、「そんなものは理想論に過ぎない」「不可能なのではないか」といった反論が出ることと思います。たしかに、現時点においては、ごみをゼロにすることはほとんど非現実に近い目標です。しかし、だからと言って、ごみをゼロにする努力を怠ってよいということにはなりません。ゼロ・ウェイストの真の価値は「ゴールに向かって行動する」点にあります。例えば、「交通事故ゼロ」を目指すとき、「そんなことが果たして可能なのか」を議論するよりも、実際に行動を起こすことが重要であるように、「ごみゼロ」もまた、達成に向けた努力の過程で、多くの成果をもたらすものであると確信しています。

実際の実施にあたっては、まず、いきなりゼロ目標を立てるのではなく、20 年後のゼロ・ウェイストを目指し、段階的な目標を設定することとします。第 1 段階として、まず 5 年以内に 50% 減、その後、5 年おきに 70% 減、85% 減を設定し、最終的な目標として、20 年後の 2029 年までのゼロ・ウェイスト達成を目指します。

ゼロ・ウェイストの基本方針は、「4つのL」です。「Local（地域主導）」「Low Cost（低コスト）」「Low Impact（環境負荷が低い）」「Low Tech（最新の技術に頼らない）」がそれであり、今日主流となっている「施設ありき」「先端技術ありき」のごみ政策ではなく、地域の状況に即し、ソフト面での減量化施策を充実させることによって、結果として環境負荷の少ない、安価で柔軟な処理を目指します。

人口3万人規模の葉山町にとっては、単独で処理施設を建設・管理していくことは非常に困難です。焼却炉建設には莫大な費用がかかり、最終処分場の確保も、用地面などで大きな課題が残ります。環境保全に対する町民の方々の強い思いと、地球温暖化問題を始めとする時代の要請にこたえるべく、処理施設を減らす、なくす方向に向かって進む必要性を強く感じています。

ゼロ・ウェイストは、「処理施設を持つ代わりに、ごみを減らす」「ごみを減らせば、施設は要らない」という考え方です。将来的なごみ消滅を見据え、焼却炉、最終処分場の新たな建設はしません。言うまでもなく、ごみがゼロになるまでの暫定措置として、民間の処理などに頼る必要性は出てきます。しかし、最終的には、そうした焼却・埋立も完全にゼロとすべく、努力を続けていきます。施設を建ててしまえば、そこまでの減量しかできません。施設を持たずに、減らせる限りの減量化を目指す—その先に待っている成果が、当事者である町と町民だけでなく、近隣地域ひいては地球全体の環境に大きな利益をもたらすものであることは言うまでもありません。

実現までの過程においては、町民の皆様と結束して取り組んでいくことが不可欠です。言わば、町民の方々こそがごみ減量の主役であり、町はその努力を助け、促し、汲み取るシステムの構築に全力で取り組むことが求められます。まったく負担のかからない減量化はありえません。ただし、可能な限り町民の方々の視点に配慮し、きめ細やかなサポート体制と啓発に取り組むことで、皆様の納得を得られるよう、施策を組み立てていく考えです。何よりも、このゼロ・ウェイストが、最終的には葉山の豊かな自然環境と、地球上の資源の保全に大きく寄与し、私たち自身にとって、そして私たちの子孫にとっても恩恵をもたらすものであることを忘れてはなりません。ゼロ・ウェイストの趣旨を皆様にご理解いただき、官民一体となって、ごみゼロの実現に向け取り組んで参りたいと考えています。

平成20年6月17日

葉山町長

